

第9回(2009年)石橋湛山記念早稲田ジャーナリズム大賞

大賞受賞作品特別上映会



「公共奉仕部門」大賞 土井敏邦監督作品・長編ドキュメンタリー『沈黙を破る』(2009年シグロ製作、2時間10分)

日時:2009年12月16日(水) 18:00 ~ (17:30開場 20:45終了予定)

場所:早稲田大学大隈小講堂 (早稲田キャンパス21号館 大隈講堂 地階)

対象:早稲田大学学生・教職員、一般 (入場無料・一般の方は要事前申込)

一般参加者の方は、ハガキに住所・氏名を明記のうえ **12月4日まで(消印有効)**に、下記事務局宛お申し込みください。申込多数の場合は抽選とさせていただきます。(定員50名)

イスラエル兵士としてパレスチナの民衆に攻撃を加えていた若者たちの、内省する声が全編を覆っている。自分たちは「占領マシン」だった。相手を人間としてみられなくなっていた、という事実を突き出して行かない限り、社会生活を送れない、との苦悩から、自分たちは一体何をしたのか、と沈黙を破って証言し始める。病んでいるイスラエル社会の内部告発が苦悩の表情とともに語られている。そこに希望がほの見える。ベトナムやイラクの米兵にも共通する問題として支持された。(鎌田慧選考委員による授賞理由)

この映画を単にパレスチナやイスラエルの映画として観ないでほしい。日本の中にあるさまざまな問題、さまざまな沈黙を見つめ直すために観てほしい。(土井監督の受賞スピーチより)

土井敏邦(どい・としくに)

1953年生まれ。1985年よりパレスチナ・イスラエルの問題にかかわる。17年間にわたって映像による取材を続け、「パレスチナ記録の会」とともに、2009年、『届かぬ声 - 占領を生きる人びと -』全4部作を完成させる。ドキュメンタリー映画『沈黙を破る』は、その第4部にあたる。

「石橋湛山記念早稲田ジャーナリズム大賞」について

早稲田大学は、建学以来、多数の優れた人材を、言論、ジャーナリズムの世界に送り出してきました。その伝統を踏まえ、2001年、広く社会文化と公共の利益に貢献したジャーナリスト個人の活動を発掘し、顕彰することにより、社会的使命・責任を自覚した言論人の育成と、自由かつ開かれた環境の形成への寄与を目的として本賞を設立。「公共奉仕部門」「草の根民主主義部門」「文化貢献部門」の3部門を設け、第9回を迎えた本年までに26件の大賞、7件の奨励賞を授与しています。過去の受賞作等の詳細は、ホームページ(<http://www.waseda.jp/jp/w/>)にてご覧ください。

【問合せ先】石橋湛山記念早稲田ジャーナリズム大賞事務局 (上映会担当)

〒169-8050 新宿区戸塚町1-104 早稲田大学広報室内 TEL:03-3202-5454